

中国黒龍江省龍頭橋ダムを中心とする視察報告

ERINA 経済交流部経済交流推進員
蔡聖錫

9月17～20日、食の新潟国際賞財団が主催した「佐野藤三郎氏の足跡を巡る中国訪問団」に参加し、中国黒龍江省のハルビン市・ジャムス市に訪れた。4泊5日の日程で、黒龍江省三江平原の龍頭橋ダム、ジャムス大学外国語学院、黒龍江省政府外事弁公室、黒龍江省水利科学研究院、黒龍江省水利庁、ハルビン市政府を訪問した。

新潟県国際交流協会理事長・中山輝也氏を団長に、亀田土地改良区理事長・齋藤博文氏、新潟薬科大学教授・大坪研一氏を副団長として、亀田商工会議所、企業、報道など総勢16名が参加した。新潟県ハルビンビジネス連絡拠点と黒龍江省翻訳協会により現地のアテンドがあった。

同様の訪問団は過去2回（2014年、2016年）あり、今回は3回目の視察であった。

9月17日(月)

新潟からジャムスまで

昼12時ごろに新潟空港から出発し、現地時間午後1時半ごろにハルビン空港に到着した。そのまま空港でバスに乗り換えてジャムス市へ移動した。出発の前に現地の旅行会社から、高速鉄道（中国版の新幹線）が8月末に開通されるとの連絡があったが、高速鉄道の開通が予定より遅れ、バスで移動することとなった。

ハルビンからジャムスまでは高速道路があり、距離は約410km、途中の休憩時間も含めてトータルで約6時間かかった。道路の状況はおおむね良好で、またサービスエリア（写真1）もあり、移動は快適だった。道路には速度監視用のカメラが多く設置されており、ドライバーも走行中にあまりスピードを出さず、安全運転に心掛ける様子であった。

写真1 高速道路のサービスエリア



（出所）筆者撮影

ちなみに、帰国後の9月末にハルビンからジャムスまでの高速鉄道が開通したとの連絡があった。今は約2時間半で移動できるという。

9月18日(火)

ジャムスから龍頭橋ダムまで

朝7時半に宿泊地（ジャムス江天大酒店）から出発してジャムス市の東南約150kmにある龍頭橋ダムに向かった。移動はバスで、ジャムス市内から高速道路（約70km）で双鴨山市集賢県まで行き、その後一般道路（約150km）で宝清県を経由し、約5時間で龍頭橋ダムに着いた。

道路の両脇にはトウモロコシ畑や水田が広がっており（写真2）、三江平原の雄大さを実感した。また、収穫の季節に合わせて訪中したこともあり、路上ではトラクターやコンバインなどの大型農業機械を輸送する姿が見られた。説明によると、三江平原における農業の機械化は全国トップ水準だという。

写真2 トウモロコシ畑



（出所）筆者撮影

龍頭橋ダム

昼11時半ごろに龍頭橋ダム（写真3）に到着し、黒龍江省水利庁の職員の案内のもと龍頭橋ダムの視察を行った。龍頭橋ダムは黒龍江省双鴨山市宝清県南部、撓力河上流に位置する。農地灌漑、洪水防止を中心に、発電、養殖、観光の機能を備えた多目的ダムである。1996年から2002年まで6年かけて完成した。亀田土地改良区元理事長・佐野藤三郎氏が同ダムの建設に尽力し、今回の訪問団もその功績を記念するものであった。案内人によれば、現在龍頭橋ダムは当初の目的を充実に果たしており、また、周辺の風景が美しく、湖の魚が美味しいことから将来は観光名勝にする計画があるという。

写真3 龍頭橋ダム



（出所）筆者撮影

龍頭橋ダムの案内板には、ダムの概要、建設の経緯、技術仕様等の内容が記されている。日本が1980年代から技術者を派遣して現地で合同調査を行ったこと、日本の政府開発援助（ODA）を利用したこと、そのODAは黒龍江省水利建設史上初めての外資利用となったことなどが書かれていた。当初、龍頭橋ダムの建設は日中経済協力のシンボル事業の一つとして称えられて、日中関係者が一緒になって並々ならぬ努力の末、成功した事業である。今後、日中双方のさらなる協力を期待するのであれば、このような成功事例をもっと宣伝した方が良いように感じた。

ジャムス大学外国語学院

龍頭橋ダムで昼食が終わった後、ジャム市内に戻って、ジャムス大学外国語学院を訪問した。ジャムス大学は1947年に設立された総合大学で、黒龍江省の重点大学である。外国語学院には、英語、師範英語、日本語、ロシア語、朝鮮語の学科があり、その内日本語学科は当学院で唯一、黒龍江省重点学科に選ばれている。

食の新潟国際賞財団は佐野藤三郎氏の功績を中国の若者に伝えるために、2016年に大学の一角を借りて「新潟館」(写真4)を設置した。中には三江平原開発の経緯、佐野藤三郎氏の功績がパネル展示されている。今回の訪問ではテレビを追加で設置して、財団側が作ったPR動画を流した。ほかにも新潟観光のパンフレットや工芸品、菓子類が展示してある。

ジャムス大学に「新潟館」の設立をきっかけに、今後ジャムス市と日本の連携が盛んになることを期待したい。

写真4 ジャムス大学「新潟館」



(出所)筆者撮影

ジャムス大学外国語学院の訪問中に、日本語学科学学生による日本踊りや歌の披露、訪問団との交流会が行われた。説明によれば、ジャムス大学にいる日本人の教師から教えてもらったという。交流会では訪問団がいくつかのチームに分かれて、小部屋で学生達と近距離で交流を行った。訪問団のメンバーに聞くと、「日本に対する学生達の熱意がすごい」と口を揃えて感想を述べていた。

9月19日(水)

黒龍江省水利科学研究院

ジャムス市での視察を終えてハルビン市に戻り、午後は黒龍江省水利科学研究院管轄の黒龍江省水利科学試験研究センターを見学した。黒龍江省水利科学研究院は1958年に設立された、寒地水利工程、農業水利、水理学、水資源と水環境等を研究する機関である。センター内には、凍土実験室、灌漑実験室、干ばつ監視実験室等実験用施設があるほか、小中学生を対象にした節水展示館、農地栽培などの教育用の施設もある。

9月20日(木)

黒龍江省水利庁・ハルビン市政府

訪問団はまず黒龍江省水利庁を表敬訪問して、今後、節水、有機栽培、自然食品などの分野で連携することに合意した。

その後、ハルビン市政府を表敬し、ハル

ビン市の孫喆市長、方政輝秘書長、高会民外僑弁公室主任、孫玉農業委員会主任と会談を行った。

孫市長は、今年是中国の改革开放40周年、日中平和友好条約締結40周年であり、この時期での訪中団は双方の友好交流を促進するものと歓迎の意を表した。さらに市長はハルビン市の重点的な農業発展状況と対日交流の状況を紹介したうえ、今後も農業と食品加工業分野で協力してほしいと述べた。

この40年間で日中間の状況は大きく変化した。中国が世界第2位の経済大国となり、日本の対中国ODAも終焉を迎えている。一方で、日中両国の間では地方創生、経済の低成長、高齢化社会、環境保全など共有できる話題が増えてきた。今後様々な交流が一層盛んになることを期待したい。

40年前に佐野藤三郎氏を含む多くの方が日中交流の「道」を切り開いた。この「道」をより多くの方に知ってもらい、活用してもらって、次の世代に伝えていかなければならないと感じた。